

第6回部長会議要約

日 時 平成28年1月12日(火)午後3時～
場 所 市役所別館3階会議室
出席者 中野市長、馬場副市長、吉原教育長、塩野上下水道事業管理者、各部長
欠席者 石川病院事業管理者、行政委員会事務局長

議 題 1 市民部
・通知カード及び個人番号カードについて
2 病院事務局
・市立柏原病院の経営状況について(平成27年11月末)
3 総務部
・平成27年度 職員防災研修の実施について

その他 ○にぎわい都市創造部所管事項

【中野市長】

- ・ 新年初の部長会議ということで、よろしくお願いします。現在、来年度の予算について理事者査定中です。来年度は一つの大きなテーマとして、市民の皆さんの命と安全と健康を主眼においた予算編成。「主眼においた」と言いましても柔軟に対応することは非常に困難ですが、一つのテーマとして「命、安全、健康」、これは体の部分もございませし危機管理の部分もございませ。そういった一つのテーマ、もちろんしなければならぬ通常の予算についても当然ですが、そういった形で今査定に臨んでおります。そして、本年度も厳しい財政状況の中、担当部署がしっかりとやっていただいたと思いますが、執行残については速やかに閉鎖していただき、早めの返還をお願いしたいと思います。寒くなる時期ですので、危機管理の部分としては本年度もあと1月から3月と、雪、特に農業関係者の皆さんに対して、もしも雪害が発生したならば速やかに出動、対応できるような形をとっていただきたいと思います。もうひとつ、インフルエンザ、あるいはノロウイルスに関して、これも早め早めの発見と対応を、もしも公共の場所、学校等で発生した場合でも、発生することはやむを得ない場合もございませますが、後手後手に回らないよう、早い対応をお願いしたいと思います。

議題 1 市民部

○ 通知カード及び個人番号カードについて

【市民部長】

- ・ 通知カードは、昨年 10 月 5 日から随時世帯ごとに郵送されることになっていたが、全国的に発送の遅れがあり、本市においては、12 月 20 から 30 日にかけて市内の全世帯 31,454 世帯に配達。
- ・ 配達されたカードのうち、配達時不在とそれに伴う保管期間 1 週間経過や宛所なし、受取拒否による返送分 2,375 通が市に返戻（内訳は資料のとおり）。返戻率は 7.6%
- ・ 未交付の通知カードの取り扱いについては、国の基準では、今後約 3 か月間市で保管し、その後廃棄処分となる。市では、実態調査をしながら廃棄処分できる分以外については 6 か月以上市民課で保管したいと考えている。
- ・ 個人番号カードについては、現時点では顔入りの身分証明書を作りたい方、インターネットで確定申告をしたい方に作っていただいている。個人番号カードを希望される場合は通知カードと一体になった個人番号カードの交付申請書に写真を貼っていただき、必要事項を記入後、通知カードを切り離して直接地方公共団体情報システム機構に郵送していただくことになり、申請するかどうかはご本人の判断による任意。
- ・ 昨年 12 月 23 日現在、市民の個人番号カード申込数は 1,086 枚。カードの交付は、本年 3 月までは別館 2 階、それ以降は市民課で行う。交付の際には、通知カードと身分証明書、印鑑が必要。同時に、暗証番号の入力が必要であるが、交付の際に万全を期するため、状況によりウェブカメラによる顔認証を行う。これは、成りすましによる受領を防止するために行うもので、万全な体制を実施してまいりたい。
- ・ 個人番号カードについては、今後あらゆるステージで利用できると計画されているので、普及拡大に努めてまいりたい。また、申請受付、交付に際しては、正確無事故で取り組んでまいりたい。なお、平日来庁できない方のために、1 月 23 日、2 月 13 日、27 日、3 月 12 日の各土曜日午前中にカード交付のための窓口を開設していく。

議題 2 病院事務局

○ 市立柏原病院の経営状況について（平成 27 年 11 月末）について

【病院事務局長】

- ・ 昨年 12 月議会では、4 月から 9 月までの上半期の経営状況等について報告をさせていただいた。本日は、4 月から 11 月までの経営状況について、昨年度平成 26 年 4 月から 11 月までの状況と比較して説明させていただく。
- ・ まず、病床稼働率については、79.9%ということで 8.0 ポイント上昇している。柏原病院は 220 床の病院なので、176 床で稼働率 80%となる。まだ 44 床空いているが、男女による部屋区分や産科も含まれるので、100%稼働は難しいが、地域包括ケア病棟の設置等を検討しながらベッドの稼働率 90%を目指していきたい。
- ・ 入院患者数は、42,899 人ということで、昨年より 4,302 人、月当たり 537 人の延べ入

院患者数で11.1%増加している。外来患者数は81,429人で1,082人、この分については平成27年4月から土曜日を休診としている中で、平日で外来患者数が月当たり135人増加している。

- ・ 救急搬送数については、1,077件ということで、496件85.4%増加している。これは、昨年4月から内科救急を24時間365日実施したことから件数が伸びている。
- ・ 分娩件数については、213件ということで、昨年より72件、月当たり9件増加している。また、産婦人科は今現在月平均26件だが、まだ分娩を増やす体制は整っているもので、さらに柏原病院で出産していただけるよう広報周知していきたい。
- ・ 医業収益については、昨年と比較して2億8,710万円増加している。費用も増加しているが、経営状況は11月末時点で、医業収支改善額は、前年比1億9,242万円に達している。このままでいっても経常収支は均衡に届かないので、平成28年度に向けて収入の増並びに医業費用である支出コストの抜本的改革を進めている。

【総務部長】

- ・ 11月までの医業収支を見せていただくと、約2億以上の収益となっているが、これでもまだ経常収支が均衡にならないということで、その理由は何があるのか。

【病院事務局長】

- ・ 経常収支均衡ということで、平成27年度収支を均衡にするために平成26年度との比較で言うと、26年度は一般会計から赤字補てんとして3.5億をいただいて、経常収支は2,400万円のマイナスだった。すなわち、数字上では平成27年度は26年度と比較して3.74億円の改善があれば経常収支均衡になる。今現在8か月で1億9,242万円ということで、3月までの数字はまだ出ていないが、経常収支が均衡にならない、3.74億円には届かないと説明させていただいた。質問は「なぜか」ということだが、柏原病院としては収入を増やす努力と経費を削減する努力をしていかなければ経常収支は均衡にはつながらないと考えており、収入を増やすには平成26年度後半から27年度にかけて各種の診療報酬の加算を取っていくようにした。経費については、経費削減のため、医療材料費、薬品費等の分について、柏原病院の医療材料費比率を現在の23%から民間病院並みの10%台に下げることによって経常収支が均衡になる。そのためには、最善の努力をしていきたい。

【総務部長】

- ・ 資料だけを見ていると、黒字のような印象を持ってしまうのではないかと。これだけ医業収益が黒字になっているのに経常収支は赤字というところが非常にわかりにくいのではないかと思い、質問した。病院が歳入歳出ともに努力されている所は理解できるが、その辺りの説明があれば良いのでは。

【病院事務局長】

- ・ 柏原病院は企業会計ということで、収益的収支の中で経常収支の均衡を図っており、12月議会では平成27年度の経常収支を均衡にするために、最大で3.2億円、あと医療機器購入や施設の整備に使う部分でマイナスがあり、今年度2つ合わせて5億3,000万円の資金不足を持ちながらスタートしている状況。総務部長が言ったとおり、資料は26年度と27年度の比較を書いている、医業収支はプラスとなっているが、今説明したとおり、医業収支以外にも医業外収支などがあり、今回の資料は経常収支の中の医業に関する部分のみを記載している。

【中野市長】

- ・ 病院というのは、ご存じのように医業収支以外、経常あるいは資本収支の部分がある。ただ、今年は医業収支の部分も昨年比良いところだけを出しているという意味ではなく、実際数字として表れているということは事実であり、議会でも説明したが、特に資本的部分あるいは病院の営繕、大型機器の購入ということは、市全体で協力していかなければならないということであるが、日々の経常医業ということについてはおおむね目途が立ったということと、加えて地域包括ケアは決定しており、4月からやっていたかかないといけない。例えば、盲腸で入院した場合、最近では入院期間3日程度だが、もう少し入院していたいと言っても病院としては収支が上がってこないため、地域包括ケアへ移動してもらうという、患者様にはご迷惑をかけずに病院の経営が上向いていくという一つの策であり、また今後高齢者を中心に、さらに家にいるよりもという方のための設置でもある。それと、法を順守しながら物品の購入について、我々役所だから買い方はしっかりとした入札を経てやっている。その中で法を順守しながら新たな安く変える方法で今23%の材料費比率を10%台にまで落とすと億単位のお金が出てくると思うが、今まで手を付けなかったところなので、これを来年度早々準備でき次第すぐをお願いしたい。それと、もう一つは、皆さんにも関わることだが、従来の病院事務局の考え方は各部署と同様に病院事務局という部署があるという考え方から少し発想を変えて、病院事務局はできるだけシンプルなスタイルで病院の事務機能を守っていくという形を今年度の途中から取らせている。新年度はさらにそれをスリム化して、現在病院事務局で払っている1億3,000万円ほどの人件費を、1億を切るような構成でやるのがベターではないかと考えている。そういったところからも「出を制する」ということである。それと、本庁も含めて人件費の問題について検討している。最後に、病院の体制は今までとどのように違うのかということ、しっかりとした責任者、責任体制、組織体制が整う途上であるということ。もちろん最終的な責任は市長にあるが、日常の病院経営に関して本庁に相談するというのではなく、しっかりと現場で判断できる責任者としての管理者、そしてドクターを束ねる院長、各部門を束ねる看護師やコメディカル、病院事務局の4者の頂点に管理者がおり、よほどのことがない限り市長の判断を仰ぐことを来年度以降少なくしてもらえ責任体制ができつつある。と同時に、さらに今まで以上にパワーアップしていただいて、大阪市立

大学の協力体制がより強化にされてくるということ。ただ、いい話ばかりではなく、40名以上のドクターを送っていただいて、いわゆる治療しつくした部分というのが一部出てきている。ドクターは手ぐすね引いて待っているが、患者さんが良くなったということで、新たに病院は患者さんに来ていただけるような周辺に対する努力をしなければならぬという課題が残っている。そういった意味で、収支均衡は当然ながら、あわよくば黒字を出してほしい。しかしながら、220床の病院をもっている柏原を市民の皆さんに守っていただいたという病院を持つステータスのまちとして、今までのような3億、4億、5億というような繰入は許されないが、収支均衡前後をしっかりと保てる病院になる目途ができたということである。あとは、接遇そして広報についてプロジェクトを立ち上げさせていく予定である。

【病院事務局長】

- ・ (市民公開講座の案内資料参照)

議題3 総務部

- 平成27年度 職員防災研修の実施について

【総務部長】

- ・ 近年、広島での土砂災害や常総市の洪水による大規模災害などが発生している。柏原市でも山と川の両方があるということで、こういったリスクを抱えている。阪神淡路大震災以降、藤井寺市や羽曳野市と共同して3市震災訓練を毎年やっていたが、最近、職員の実技を伴う訓練をやっていないということもあり、若手職員の中には防災訓練の経験が全くない方がいると思われ、そういった方に訓練を受けてもらうことで、柏原市全体の防災力を高めようとするもの。2月12日、16日、18日の3日間を訓練のために取っているので、いずれか1日、若手職員、特に5年未満の方にはできる限り全員受講していただけるよう配慮願いたい。実施要領については、後日回覧する。今回、八尾土木事務所、水道工務課、道路水路整備課の協力を得て行うので、よろしく願いたい。
- ・ 次に、避難所運営を課単位に変更したことについての留意事項をまとめた。昨年、一昨年と、避難所の開設がこれまでになく長時間にわたる事例が発生し、一昨年などは交代要員確保のために配備体制を引き上げるといっても行い、昨年も丸2日間という状況も起きている。これに対し、その都度交代要員を確保するのは現場として混乱するので、各課で交代要員と交代時間を運営していただくようお願いしたい。これに取り組むことにより、避難所での指示系統が明らかになると同時に、災害時における日常業務についても各課で配慮いただけるのではないかと考えている。この件については、危機管理課から順次担当課に連絡する予定。

○その他

(1) にぎわい都市創造部所管事項

【にぎわい都市創造部長】

- ・ まちの魅力発見塾の開催について、1月18日午後6時からリビエールホールで、前武雄市長の樋渡氏によるまちの魅力発見塾の4回目（最終回）を開催する。今回は、「地域ブランディングについて」がテーマで、地域資源を活かし地域ブランドを構築するための指標など、これからの柏原市に求められる講演内容となっている。職員の積極的な参加をお願いしたい。

(2) 市長より

【中野市長】

- ・ 任期中の3年間で色々な課題を指示しているが、今までのような悲痛なやりくりというものから、これから伸びていこうという体制。しかしながら、気を緩めたらすぐに転落するので、頑張っていていただくという課題と、12月議会で、議会・市民の皆さんのご承認をいただき、最終テコ入れをさせていただいた。サンヒル柏原も年間1,200万円の家賃をいただいて市の財産を有効に活用させていただいた。そして、留所山の自然公園『スマイルランド』も想定を超える利用者があり、春から指定管理も入れながら、堅上地区の発展に寄与できるような形で、担当部署にしっかりとやっていただいた。
- ・ この1年、市民の皆さんに、広報や色々な形を通じて、行政が中長期的な展望をどのように持っているのかをフルにお示しさせていただく年にしたいと思っているので、各部署ともにオーダーが出たらすぐに対応していただき、「このまちは一体どうなるのか」ということを市民の皆さんにわかりやすいように出していくよう邁進していきたいので、よろしくをお願いしたい。

【司会者から他に案件等がないか確認後、会議終了】